

〔枕草子 六〕あはれなる物

にはとりの子いだきてふしたる

〔枕草子 八〕うつくしきもの

鶏のひなのあしかに、玄ろふおかしげにきぬみじかなるさまして、ひよ／＼とかしかましくなきて、人の玄りにたちてありくも、又おやのもとにつれだちありく、見るもうつくし。

〔沙石集 八上〕雞子殺酬事

尾州ニ若キ女房、子ニクハセントテ、雞ノカイ子ヲアマタ殺シテケリ、或時夢ニ、女人一人來テ、我子ノ臥タル枕モトニウチキテ、子ハイトオシキゾカナシ／＼トイヒテ、ヨニ恨メシグナル氣色ニテ、ウチナキ／＼スルト見テ、コノ子ナヤミテ、ホドナクウセヌ、オト、ノアリケルガ、又ナヤミケル時モ、サキノ女人スコシモタガハズ、サキノヤウニイフト見テ、ソノ子モウセニケリ、當時有人也。

雌鷄化雄

異形鷄

〔日本書紀二十九〕五年四月辛丑、倭國飽波郡言、雌雞化雄、

〔三代實錄清和天智和六〕貞觀十一年十一月十三日丙寅隱岐國言、雌雞化爲雄、

〔扶桑略記二十九〕四年、雞生鵠巢中、生子四足、

〔日本書紀二十九〕七年、是歲讚岐國山田郡人家有雞子四足者、

〔日本書紀二十九〕十三年、是年倭葛城下郡言、有四足雞、

〔扶桑略記二十九〕承平四年三月十一日、山城國進于雞雛一翼、其體自頸下相分二體、有四翼四足二尾、

〔兎園小説九集〕一足の鷄

文化十一年の夏の比、飼鳥あきのふもの、鷄の雛の一足なるをもて来て、これ買ひ給はずやとい